

常磐津 お夏狂乱

明キ 風音

行く秋の

「名残りをとどめおく手田の刈り跡黒む一時雨晴れて西日のあかあかと雲彫る夕映に
しよんぼり立つや破れ案山子一つ残りてからころり鳴る子の音に思い出の

「紅葉も今日は散りぬらん

テ天) ト、豆太鼓

「何が何やらよしあしも 白絲そだち山そだちいたづら盛りの

「面白や

ト、桶胴フチ回シ 加ワル

「おまんが紅さいた 父母に言うてやろ ちんがらもんがらちんがらこ
「鳥の首や長いか驚の首や長いか驚の首や長い何として長い
「ひだるうて長い ひだるうて長くば田打て田打て 田打ちのおんばさ
「餅買うてたもれ 凧買うてたもれ買うてたもらにや糞んば鬼ば
「目腐れおぼばの鼻びつび

豆太鼓 桶胴フチ回シ

スグ、合方ヨリ 風音 「加茂の競馬の膝栗毛

大小鼓 「あかやいあかやいまつかいな 真紅の手綱に障泥を打つて

「ぼんばかしたん ぼんしたん お馬が二足ではいどうはいどう
「大手下馬先ぎ桜の馬場に お池の中までざんぶりこ
「乗つたりや乗つたりやえんわいわい勇む春駒面白や

「遊びほうけていたづらども

「みんな見見見い いつもの笠の狂人があれ向うから」

「来る来る来る」

「きのうのように今日もまた 菅笠かぶつた人見れば

「顔見たがつて泣こうなら 泣かせて遊ぼうと小うなづき

「何やら小智慧わるあがき

風音 「ささやきひそめく森陰に

「初こがらしや一しきり

※子供入ル

「向ひ通るは清十郎じやないか 笠がよう似た菅笠が
「よう似た笠が 笠がよう似た菅笠が

二上リ トン、トン、

(ツチツチントン) チャン

オルゴール ショー 水音
「笠よ笠 梅の花笠その花笠を
「縫いやわすらう藪鶯の
「ほけきよほけきよと
「身をさかさまに
「泣いて殿御に逢わるるならば
「なんな七夜も

スグ 「泣き明かそもの 風音

「我れは此の世に後れてひとり
「染むる間もなき ニュー

スグ、合方ヨリ

風音 見計ヒ オルゴール
合方イッパイ) 「おそ紅葉

アト 風音 「風に散りそう紅葉が風にひらひらひら

「散るもみぢ葉を

スグ、合方へ

オルゴール 風音
「染めて小袖の晴れ模様
アト 風音 見計ヒ

「何じや嫁入りじやフムすりや見事な介添が附いて
「釣台が七つ 箆筒長持が九棹 して其の花嫁御の名は」
「たわいも浪の浮寝鳥夫に離れて昼夜を

「狂い渡るぞ 合方へ

オルゴール 風音 合方イッパイ) ト

「便なけれ

「わんぱくどもは手を揃え
「通つた通つた今ここを通つた
「色が白うて背が中ぜいで
「年は二十四五ひんなり男
「菅の小笠を着て通つた

豆太鼓 桶胴フチ回シ

「逢いた逢わそと そやさされて

「なに菅笠がどれどれどれ」

「行かんとすれば口々に

「うんにやいつももの唄うたうて」 「踊らぬうちは」 「教えぬ、教えぬ」

「なにいつものを」

「歌えいとや

「お、お、歌おうとも 歌おうとも」

スグ ドーンツテン、チレドツテント、田舎唄合方ニテツナギ

前出テ) ト、唄カカル

ドーンツテン、チレドツテン

キヌタ 田舎笛

「わしとナアお母さと絲とつてみたれば
「東窓から艶書ノウ投げる
「わしにやあたらでお母さに中る
「お母さわしよ見るわしやお母さ見る
「取るにや取られぬ水の月 しよんがえ

チ、チン、ト

「うんにやそれではないお夏の歌じや」 「さうじやさうじや お夏の歌じや」

「なんじやお夏の歌じや」

「清十郎殺さばお夏も殺せ 生きて思いをさしよよりも

「思いを生きて生きて思いをさしよよりも

「あれあれ あそこへ」 「清十郎が来たぞや」 「来たぞや来たぞや」

「え、どれ どこへ」 「それぞれ そこへ」

「菅笠が ほんにすげない浮世とは知れど若しやに

「ひかれて今日も

風音 見計ヒ 「はやたそがるる初木枯に

「ワイワイワイ」

「木々の木の葉のはんらはら 泣きつ 怒りつ しどけなく

「乱れ狂うぞ無慚なる

※お夏ト子供入ルト、

風音 打上ゲ スグ 駅路 見計ヒ

「むすめサアなによる行燈の蔭でかわいサア男のナア

「帯ヨ解けるヨ 頭付き 禅ノ勤メ

「男なりやこそ此の霜空に 裸百貫負目の代に 遭るに造られず何もかも

「ほつきあげくの其の果が 身上棒にふる襦袢ふるへ忘るるどぶろくに

「浮れ小唄の一ふしは 腰の徳利の口うつし 手綱取る手のぶさたげに

「ぶらりひよろりと 来りける

蛙ノ声 山ヲロシ

蛙ノ声

「エーツプウ ああ、えい気持じやハ、ハ、ハ、
何じや裸じや、はアてだんないわいやい」

「まんがサアわるうて裸になると 酒をサア飲もならナア 冬知らぬヨウ

「やそこにいるのは誰れじやい ウ、イ 誰かと思うたら

ぬしや地藏どんじやないかいやい」

双盤 大太鼓
「フヤ」 チンチリ チンチリ ツンツル ツンツル

「常住そうしてちんとして ごんしたら けつが ひえぞい ひとつ

1、 2、 4、 1、 2、 4、 1、 2、 4、 1、 2、 4、 1、 2、 4、 1、 2、

「飲ませんかいな

チンチン ガン ドド ガン ドド ト、双盤

「いやかいの したら耐をしてくだんせいの

ツ、ツン、ト

「ハ、、、、こりや何を言うても画にかいた木戸であかんわい
これが正真正節の」

カンカラ 摺り鉦

「石部金吉かなつんば 金には地体縁薄なれど 馬方冥利宿々の

「ようこりやどうじや地からわいたか 天から降つたか
天人の零落かさつてもえらい美しい」

